

自己点検・評価について

① プログラムの自己点検・評価を行う体制 情報科学部教務委員会

(責任者名)	石光 俊介
(役職名)	情報科学部長

② 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	本学では学生の履修登録、出欠管理、成績入力、単位修得状況などを学務システムUNIPAで一括管理している。このシステムを活用することで、学生が本教育プログラムを履修・修得しているかどうかを確認することができるようにしている。
学修成果	本教育プログラムは、講義科目・実験科目・演習科目で構成されている。講義科目は主に期末試験によって学修成果を評価している。実験科目は成果物やそのプレゼンテーションによって評価している。また産学連携の演習科目ではプロジェクト成果物や成果発表会により評価している。
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	本教育プログラムの全ての科目において授業アンケートを実施している。理解度についての設問「授業の内容は理解できましたか」の回答結果や、期末試験等の学力評価に基づいて学生の内容の理解度を年度毎に点検・評価し、次年度の授業内容に反映させている。
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	本教育プログラムの全ての科目において授業アンケートを実施している。興味関心についての設問「この授業が扱う分野やテーマについて、あなたは今後もさらに学びたいと思いますか」の回答結果や、自由記述欄等に基づいて他の学生への推奨度や改善点について点検・評価している。それらの結果を担当教員がとりまとめ、シラバスに設けられた「教員からのメッセージ」欄を用いることで、先輩から後輩へのフィードバックが行われるようにしている。
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	本教育プログラムは全24科目のうち20科目以上が本学情報科学部の必修科目である。また残りの科目も情報科学部の全学科が履修対象となる科目から構成されている。またその半数が産学連携科目であり、ガイダンスや本教育プログラムに含まれる授業中において、産学連携科目の意義や進路を考える上での有用性、本教育プログラムの認定制度について説明し、積極的な履修を促している。
学外からの視点	
教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	本教育プログラムには、「実践的ICT活用事例」や「課題解決型演習」といった産学連携科目が含まれており、それがきっかけに関わった企業の就職採用試験を受けて内定を得るなど進路にも活かされている。広島市立大学ではキャリアセンターが進路状況を集計しており、本教育プログラム修了者の進路を確認することができる。
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	本教育プログラムには、「実践的ICT活用事例」や「課題解決型演習」といった産学連携科目が含まれており、産業界から講師を招いての講義や、企業とのプロジェクト演習を行なっている。そのため本教育プログラムの内容に直接的に産業界の動向や意見を反映させることが可能である。また広島市立大学では毎年「広島市立大学産学連携発表会」を開催している。企業と教員の交流を図ることで社会の変化に合わせてその他の授業内容も継続的にアップデートしている。
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	本教育プログラムの全ての科目において授業アンケートを実施している。興味関心についての設問「この授業が扱う分野やテーマについて、あなたは今後もさらに学びたいと思いますか」の回答結果等に基づいて学ぶ楽しさや意義を理解させられたかを点検・評価し、次年度の授業内容に反映させている。各授業で各々改善をはかるのに加え、本教育プログラムには数理・データサイエンス・AIの実践の授業として、「実社会指向基礎数学」、「課題解決型演習」、「情報科学基礎実験a, b, c」といった実験・産学連携科目を数多く含んでおり、他の基礎的な科目を学ぶ意義が十分に理解できるように工夫している。
内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること ※社会の変化や生成AI等の技術の発展を踏まえて教育内容を継続的に見直すなど、より教育効果の高まる授業内容・方法とするための取組や仕組みについても該当があれば記載	本教育プログラムの全ての科目において授業アンケートを実施している。理解度についての設問「授業の内容は理解できましたか」の回答結果等に基づいて学生の内容の理解度を年度毎に点検・評価している。さらに、本学では卒業前の学生を集めてのキャリア・コンサルティングを実施している。各科目やそのつながりについて意見交換し、次年度以降の改善につなげている。 また、生成AI等の急速な技術発展を受けて、授業内容に生成AIの利用方法や倫理的な問題などを取り入れるなど継続的な見直しを行なっている。「情報科学基礎実験a, b, c」といった実験授業も内容を5年ほどのスパンで見直し、継続的に実験内容の大幅なアップデートを行っている。